

9/8(木)

【分科会 5】 アンチスティグマとリカバリー

座長：高橋清久（財団法人精神・神経科学振興財団）

シンポジスト：正しい知識でアンチスティグマ（汚名の解消）の実現を

寺尾直宏（NPO 法人千葉県精神障害者家族会連合会）

統合失調症の遺伝子研究～どこまで解明され、何がまだ解明されていないか～

糸川昌成（東京都医学総合研究所 統合失調症・うつ病プロジェクト）

脳画像からわかる統合失調症の仕組みと回復

福田正人（群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学）

統合失調症の認知機能障害と認知リハビリテーション

中込和幸（独立行政法人国立・精神神経医療研究センター）

地域での生活と社会参加への一歩 ～新しい統合失調症治療への期待～

平林茂（株式会社 MARS メディアクリエイティブ事業部）

指定発言者：宇田川健（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ）

昨年のアンチスティグマとリカバリーの分科会で、寺尾さんから正しい知識の普及が行われないとスティグマは解消されないという提案があり、今年は座長の高橋さんが「最先端の人たちを集めようと思うんだよ」ということで、本当に世界の最先端の研究、実践をしている方々が集まりました。

寺尾さんからは、日本における精神科への偏見を助長してきた古くからの制度や歴史、最近でもまだ、精神科にかかっている人たちへの偏見を助長する動きがあることが報告されました。

糸川さんからは、統合失調症の遺伝子研究から、カルボニルストレス性統合失調症について、報告がなされ、原因がカルボニルストレスである統合失調症へはピリドキサミンを投与する医師主導型の治験をすでに始め、統合失調症の原因が一つ解明されようとしていることが報告されました。また数多くの遺伝子が統合失調症には関わっていることがわかってきているが、ある一つの遺伝子の変異がおこす発病の頻度の割合はとても少ないということも報告されました。

福田さんからは、脳の画像診断から特にうつ病、そううつ病、統合失調症では特徴的な画像診断を行うことができ、うつ病では、診断の補助として NIRS 検査が鑑別診断補助として先進医療に認められていること、また、fMRI 検査や MRI 検査で脳機能を調べると、例えば幻聴が聞こえるということに特徴的な自己と他者とを認知する部位や、声を聞いたりする部位や、複雑なことを処理する部位が効率的には働いていないことがわかったりするということが報告されました。しかし脳にはこれまで考えられていた以上に可塑性というものがあり、こころと生活の回復に結びつくということも紹介しました。

中込さんは、認知機能障害のリハビリテーションとして、コンピューターゲームや紙と鉛筆を用いたリハビリテーションに加えて、リハビリテーション参加者同士の経験の分かち合いを用いたプログラムを行い、薬では改善されえない部分や、そもそも回復のベースとなる認知についてのリハビリテーションを行うことで、日常生活や社会生活が改善されることを紹介しました。そして「働く生活ストーリー2」と「働く生活ストーリー3」に掲載された認知リハビリテーションを経験した方を紹介し、いかに認知リハビリテーションが仕事と関連があったかという当事者の感想を述べました。

平林さんは、株式会社 MARS で正社員として働いている統合失調症の当事者の方で、ひだクリニックの中で、当事者グループとしてリスパダールのデポ剤を勉強して利用しているコンスタクラブを主催し、自分の夢を叶えていることを紹介しました。

《宇田川健（NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ）》